



# 佐野中通信

ひたちなか市立佐野中学校  
令和7年度学校だより  
No.5 7月号  
令和7年7月1日(火)

燦々照今よりよき今をともに創らん

## 古(いにしえ)のよき伝統文化に触れる!!

去る6月27日(金)に、茨城県教育庁学校教育部義務教育課主催の「令和7年度ゆかたの着方研修会」を本校で開催しました。今回、幸運にもこの経験ができたのは2年生です。今年度は茨城県内の中学校では2校のみ、水戸教育事務所管内では本校のみが、この貴重な機会に恵まれました。

この日、まずは、ゆかたの歴史から学びました。古くは奈良時代にまで遡ることができるということです。「浴衣」という言葉はその名のとおり入浴するときに着る衣から生まれたようですが、元々は今のように湯につかるのではなく、サウナのような蒸し風呂に入るのが始まりだそうです。また、この日は7名の講師の先生がお越しになりましたが、そのうちのお一人はゆかたの下に「かたびら」なるものを着ておられました。お話にあったのは、その昔は、蒸し風呂でやけどをしないように麻でできた「湯帷子(ゆかたびら)」を着たとのことですが、この「ゆかたびら」が「ゆかた」の語源のようです。

説明の間には、ゆかたを「着る」ではなく「羽織る」という「大和言葉」を使うといったことまで教えていただきました。ほんのちょっとした言い回しの違いですが、普段も時折使う「羽織る」という言葉はとても柔らかく、心地よい響きの言葉だとあらためて感じました。この他にも普段耳にはしない様々な言葉が次々と出てきて、知らないことの多さを再認識させられました。

今回の授業はたっぷりと百分を超える授業だった



ので、羽織っては脱ぐ、また羽織っては脱ぐを数回繰り返し練習をすることができました。そのおかげで、この限られた短時間にもう二度と忘れないレベルにまでゆかたの着方を体験を通して身に付け、自信をもった生徒が何人もいました。

また、今回の研修は、着装だけにはとどまらず、美しい肩の位置、礼法—あいさつの仕方、所作・作法にまで及ぶ、本当に至れり尽くせりの授業でした。特にあいさつをする際の呼吸法まで指導をしていただき、あらためて日本文化の奥の深さ、その奥ゆかしさを肌で感じることができました。

授業の終末では、ゆかたの畳み方も教えていただきました。後片付けまでできて初めて一人前ということで、日常生活、生き方にも通ずるものとなりました。

随分と端折りましたが、忘れたくはない教えがたくさん詰まっていたので、ギュっとしぼって書き残した次第です。生徒の感想も早く目を通したいです。

世間一般の昨今の普段着の着こなしにはだらしなが見受けられますが、佐野中のみなさん、まずは自分の襟を正し、美しい着装を身に付けてください。ゆかたの着こなし一つで、格好の良しあしが決まります。とにかくみなさんには、郷土の伝統文化のよさを後世に伝えることのできる人になってほしいです。

今年の2年生は、昨年度のトヨタに続いてユカタと続けました。果たして3年生のときには、どんな〇〇タが来るのでしょうか。今からとても楽しみです。



智仁武勇



生活の柱：時空人の「間」を照らす - 時「間」・空「間」・人「間」

Key Word：時空人の間を燦々と照らして よりよき今をともに創らん



1年生のみなさん、初めての定期テスト、お疲れ様でした！どの顔も真剣そのもので、準備してきた成果をしっかりと発揮できたことと思います。

今回の経験は、2年後の高校入試に向けての大きな一歩です。これからも日々の学習を積み重ね、夢に向かって一緒に頑張りましょう！

応援しています。



3年生は6月1日（日）～6月3日（火）に修学旅行に行きました。

旅行中は、仲間と協力しながら行動することの大切さ、計画どおりにいかないことへの対応力、そして見知らぬ土地で新しい発見をする喜びを全身で感じているようでした。普段の学校生活では見られない、彼らの生き生きとした表情や、友だちと協力し合う姿が印象的でした。

今回の修学旅行で得た経験は、きっと彼らの今後の人生においてかけがえのない財産となることでしょう。この場を借りて、改めて保護者の皆様の御理解と御支援に心より感謝申し上げます。

6月6日（金）、2年生は校外学習に行きました。行き先は埼玉県川越市です。班ごとに立てた行動計画をもとに、情緒あふれる街並みや寺社仏閣などを見学、散策しました。

自分たちで考え、自分たちの足で歩き、自分たちの目で見える経験は、たいへん貴重な学習となったことと思います。

